

「好きこそ物の上手なれ」～漢字教育実践研究～

楊 媛

0、はじめに

2004 年秋学期の漢字指導教育実践として、8A クラスに対し、授業を 2 回担当させていただいた。受講者の中、漢字圏の学習者は 19 人（韓国 12 人、中国 3 人、台湾 2 人、日本 & アメリカ 2 人）、非漢字圏の学習者は 5 人（ドイツ 3 人、日本 & アメリカ 1 人、オーストラリア 1 人）①、合計 24 人である。学習者のレベルは上級で、しかも漢字圏の学習者が多いことを配慮し、授業内容を漢字指導ではちょっと難しい「数字の出てくる四字熟語」と、見落とされやすい「漢字の部首」にした。授業の趣旨としては、できるだけ学習者の興味を引けるようなおもしろい内容を取り扱い、難しそうな内容を楽しく習得させることである。「好きこそ物の上手なれ」という諺からの発想だったのである。

ここでは、実践を通じて実感した授業をする大切なところや、実践後の反省会でみんなに指摘してくれた不足なところをまとめてみる。

1、漢字指導実践の心得

1、1 学習者のアンケート調査チェックする

最初の授業で行われた学習者のアンケート調査の結果は非常に大切である。授業前にその結果を読み取って、ちゃんとした狙いを持って授業するほうがよい。また、学習者の名前を覚えるのは、親しさを深めさせ、好感度を持たせるには不可欠なことである。

1、2 授業の面白さを工夫する

日本語学習者の一人として、授業内容を選択した時、中学時代の日本語の授業が思い出された。その時、一番期待していたのは、日本人の先生の授業だった。なぜかというと、堅苦しい文法をそのまま導入して練習させる中国人の先生の教え方より、日本人の先生のほうは、授業の形式がずっとバラエティーに富んでいたからである。このことから、授業内容のおもしろさは一番大切な要素だと意識してきた。

「好きこそ物の上手なれ」といわれているように、勉強は興味から始まるのである。難しい知識点でも、教える形式にちょっと工夫したら、おもしろさの溢れた楽しい授業ができるはずである。

また、知識点の実用性を意識させるのも、学習者の興味を引き起こすことができる。身の回りの生活を場面を設定して、知識を活用させる練習もよいだろう。

1、3 ワークシートを読みやすく

ワークシートはたくさんの知識のポイントが書かれているため、できるだけ読みやすいように工夫したほうがよい。また、重要な部分を空欄に作って、学習者に記入させることに

より、習った知識を定着する。

2、不足とこれから注意すべきところ

実践の後、授業をする時の、いくつかの物足りないところを感じた。

①時間の把握

実際の授業では、導入の時間は教案の通りに行かなかったのが、プリントにある練習を全部やらせる時間なかったりすることがあった。

②練習の量

練習問題はどれくらいプリントに作ったらよいかよく把握できなかった。

③書き順

中国と同じ漢字ではあるが、書き順が違う。なかなか日本語の正しい書き順になれない。

④指名

授業中、学習者からの反応を待つばかりでなく、答えさせたい質問に手を挙げる人がいなかった場合、指名をして、授業の流れを進めること。

⑤質問に対して

授業中、学習者の質問に答えられなかった場合、無理に説明しなく、ちゃんと調べてから次回で教えると伝える。

3、授業後のアンケート調査結果

	おもしろかった 勉強になった	ちょっと難しかった	覚えてない	欠席
「数字の出てる 四字熟語」	16人	2人	1人	5人
「漢字の部首」	14人	2人	1人	7人

4、まとめ

以上、今学期の二回の実践で感じたことをまとめてみた。アンケートの結果からもわかるように授業を楽しくすることに工夫すると、非常によい効果がでるのである。今学期の実践で得た貴重な経験を大切に、これから中国の日本語教育現場に応用したいと考えている。

注①：韓国を非漢字圏と漢字圏のどちらに入れるかということは、いまだにまだ定論がない。本稿では韓国は漢字圏に属しているという主張に従う。

また、国籍はアメリカ&日本である学習者は3人いるが、中の2人は大学前まで日本に在住していたため、漢字圏に入れたのである。

(ヨウ エン・修士課程1年)